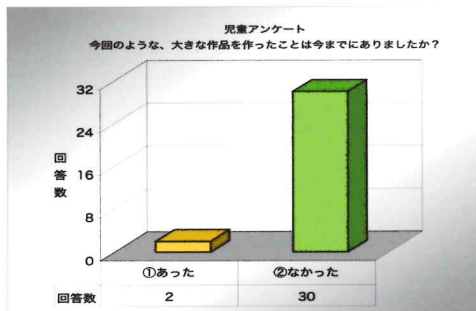


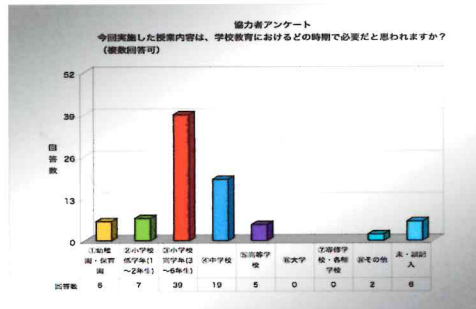
「体感すること」「言葉では伝えられない経験」とは正にこのことであるように思います。この「身体と布のワークショップ」は、コンテンポラリーダンスで行うトレーニングが元になっています。自分の中に集中する感覚と解放される感覚を同時に体験するトレーニングであるように思います。今回の回答からも、このような時間は体感する者にしか分からない、説明のつかない貴重な時間となり得るのだと思いました。

「学校（公教育）」の場今回のプロジェクトは必要か。

児童アンケートで行った、以下の結果を受けて私はこのプロジェクトを行えたことに感謝し、自信を持ちました。



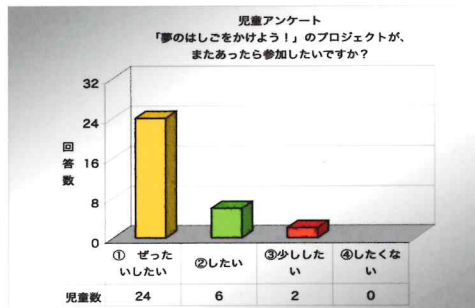
学級の大半の児童が今回のような、大きな作品を作ったことが「なかった」と回答しています。実際小学校4年生までに体験している大きな活動も学校行事などを中心にして、数多くあるものではないと思います。しかし、私の体験では中学校、高校時代と年を経るにつれて仲間と一体感を味わったり協力して何かを成し遂げたりする時間を持つてなくなっていくようになっていきました。生活が「忙しく」なるのです。そのことを踏まえた上で協力者の方々も以下のような回答をしているのではないのでしょうか。しかし、高等教育に進むに連れてこの様な授業の意義が薄まるのではありません。むしろ貴重な時間としてより重要性が増すように思います。その点については4年前に高等学校の生徒約100名と行った「言の葉プロジェクト2003」にて述べていますので、割愛したいと思います。



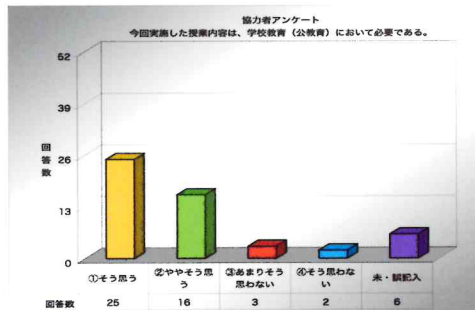
さて、ある協力者のご指摘にもあったように、教科競争教育の中では学校教育の

一貫としてこの様なプロジェクトに時間を費やすことが許されなくなるのかもしれませんが。または、教科ごとに教師が変わるため、学校現場としてもこのようなさまざまな教科と連動する内容は実現が難しいようにも思います。そのような観点から考えると、私が小学3年生で体験したあの「1aの世界」のように、今まで体験できなかった世界を体験し、縁あって出会えた仲間と何かを成し遂げるチャンスが、この小学校時代にしかないものだといっても過言ではないかもしれません。そして、児童や協力者が共感を得てくれたことに感謝し、「学校」という現場で行ったことが意義あるものであったと確信しています。

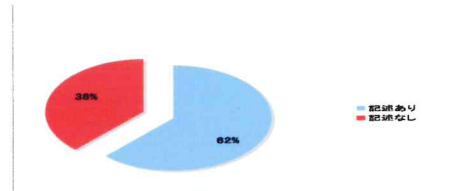
さらに、「夢のはしごをかけよう。のプロジェクトがまたあったら参加したいですか。」という質問に対し、約94%の児童が「したい」と答えています。「したい」「少ししたい」という回答理由には「一度やったので次は同じことではなく違った内容をしたい」「冬ではなく夏にしたい」と、決してプロジェクトの内容に対し否定的ではありませんでした。



また、協力者に対して「今回実施した授業内容は、学校教育（公教育）において必要であるか」と率直に質問しました。



約79%の方が「必要である」と答えています。その理由を記述にて回答して頂きました。



記述された文章の一部を挙げたいと思

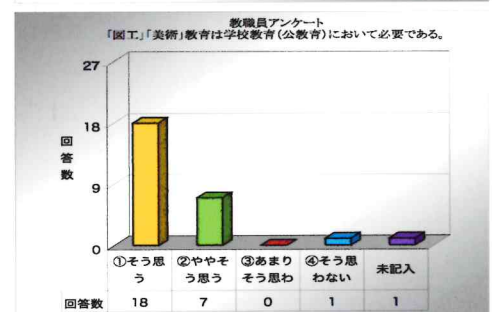
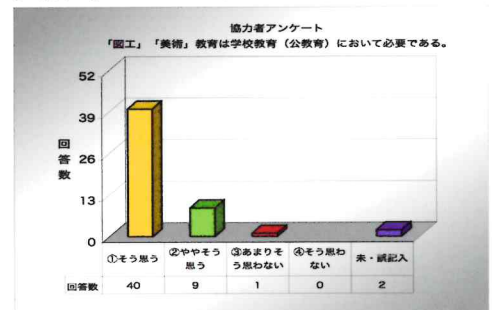
記述された文章の一部を挙げたいと思います。

- (ア) いつもと違う事、改めて感謝の気持ちを持つ事は大事。
- (イ) 生徒の夢（心）や五感を使っている、頭だけではなく体を使うことも必要だと思います。
- (ウ) 子供には1つの事をクラスのみんなで協力し合うという事が必要であると思う。
- (エ) 自身の発表、自分の言葉で発表してくれて感動して涙が出ました。
- (オ) 仲間と何かを作り上げる経験が少ない中、達成できたから。
- (カ) 会話以外でのコミュニケーション、素直な気持ちを表現する、大勢で一つのことをなすとげる。
- (キ) 子供達に自信をつけられたと思う。
- (ク) うまく言えませんが、教科書の勉強とちがいが心の成長（友達や家族、まわりの人達とのつながり）多分子供達の心に一生残るすばらしい時間だったと思います。

私にはプロジェクトの内容を快証しよりよいものにしていく必要と責任があります。しかし、協力者の方の回答にもあるように、子供達の姿や何かに取り組む素直な姿勢と勇氣には私自身感動しました。そして、そんな子供達を見て、真っ先に「言葉」にして私に伝えて下さった協力者の方々我真つぐさに大変感銘を受けました。この作品は、本当に私の未来への「夢のはしご」となり、頂いた「暖かい言葉」を足掛かりにして進んでいきたいと心から思っています。

「学校（公教育）」に「図工」「美術」教育は必要か。

以下のグラフは、教職員及び協力者に対し「図工」「美術」教育は「学校（公教育）」に必要か、と質問した結果です。



教職員の約93%が「必要」、協力者の約94%が「必要」と答えています。教職員で「あまりそう思わない」と答えた